

広告

宇部興産中央病院医療最前線  
—シリーズ患者さんに寄り添う専門医療18—

# 成人鼠径ヘルニアについて 病態とその治療

患者さんに負担の少ない  
腹腔鏡手術も含めて

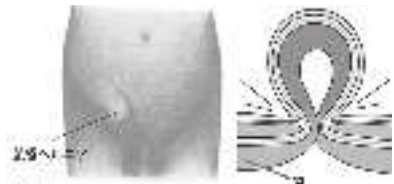


外科部長  
原田 俊夫

「ヘルニア」とは、そこにあるべきでない組織が脱出する状態です。ヘルニアという名のつく病態はたくさんありますが、下腹部にある鼠径管と「トンネル」にお腹の組織が脱出するのを「鼠径ヘルニア」といいます。通常、鼠径管には男性では睾丸へ行く血管や精管が、女性では子宮を支える靭帯が通っています。鼠径管に腸が脱出する場合を俗称で「脱腸」と呼び、ピンとくる方もいるでしょう。体の構造の問題であり、手術以外に治療法がありません。最近では痛みも少ない腹腔鏡を用いた手術方法も普及してきています。

初めは、立位や腹圧がかかった時に鼠径部がぼつりと腫れることで気付かれることが多いようです。お風呂上りなどに自覚する人もいます。指で押さえると引っこみます。痛くないことも多いです。ひどくなると陰嚢まで腫れてきます。時に腫れが硬くなり、押さえても引っこまなくなることがあります。腸管などがはまり込み、抜けなくなった状態で、カントン（嵌頓）（図1）といい、緊急手術をしなければ、腸閉塞になったり、腸管が壊死したりして命にかかわることもあります。嵌頓はいつ起こるかかわりませんが、鼠径ヘルニアを持つ方は常に危険性があります。

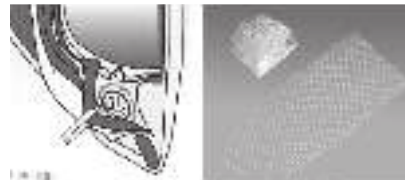
成人では年をとると鼠径管入り口が緩み、最も内側の腹膜という膜が入り口から次第に袋状に伸びて鼠径管内を通り陰嚢方向へ脱出し、この中にお腹の中の組織が出たりひっこんだりする外鼠径ヘルニアと鼠径管奥側の筋肉が衰え、これを直接押し上げるようにして鼠径管内に脱出する内鼠径ヘルニアに大別します。8割近くが男性です。立ち仕事、力仕事に従事する人に多く、便秘、肥満、咳が多い人、女性では妊婦さんも要注意です。



（図1）鼠径ヘルニアの位置・カントン（嵌頓）の状態

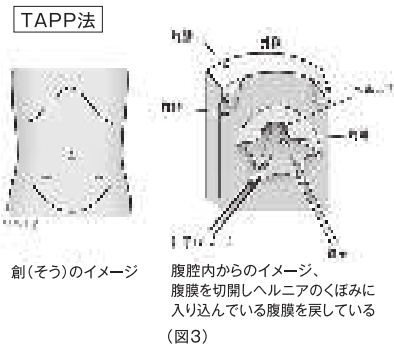
鼠径ヘルニアの手術には大きく二つの種類があります。鼠径部皮膚を切開する方法と、最近増えている腹腔鏡を用いて行う腹腔鏡法です。鼠径部を切開する方法にもたくさん方法がありますが、ヘルニアの穴をメッシュを用いて、Tension-free法と穴周囲の組織を用いて縫縮し補強する方法に大別

されます。どちらも長所、短所はありますが、現在では再発率が少なく、術直後の痛みが軽いメッシュを用いる施設が多いです。患者さんの状態や希望により変わりますが、当院でも鼠径切開法を行うときはメッシュプラグ（図2）、ダイレクトクイール、ポリソフトなどのメッシュを用いることがほとんどです。



（図2）メッシュプラグ法に用いられる医療機器

腹腔鏡法も最近はかなり増えてきました。腹腔鏡手術も方法が何通りかありますが、当院ではTAPP（図3）と呼ばれる方法をよく用います。これは、腹腔鏡でヘルニアの穴をお腹の中から観察し、内側からメッシュを利用して補強する方法です。当院では臍（へそ）に10mm程度の傷とその他に5mmの2か所の傷がほとんどです。



腹腔内からのイメージ、腹膜を切開しヘルニアのくぼみに入り込んでいる腹膜を戻している  
（図3）



創（そう）のイメージ

なんといつても傷が小さいので痛みが楽で退院までの期間が短くなるのが長所です。再発率も鼠径法のTension-free法とあまり変わらないと思われまます。患者さんは比較的楽であり当院でも急増しています。どの方法にも長所、短所はありますが、患者さんに合った、負担が少ない、再発率の少ない手術を心がけています。鼠径ヘルニアかもと思う症状がある場合は、近くの外科病院を受診し、相談しましょう。

宇部興産中央病院は地域医療支援病院です



〒755-0151 山口県宇部市大字西岐波750番地  
地域連携室 ☎0836-51-9421

専門分野 ●消化器外科

得意とする診療内容 ●外科一般